

ふらつき、めまいに加えて

極度に人を選けるようになった娘

十六歳の娘のご相談します。中学一年の頃からふらつき、めまいなどでほとんど学校へ行けなくなりました。最悪なときは一日中寝たきりで、トイレも手を借りなければできない状態で、首や手足の痛みもあるようです。大病院に検査入院しましたが、どこも悪くないとのことでした。しかし頭のふらつきはとれず、加えて昨年の五月頃からは極度に人を選けるようになり、家族が近づくとすらいやがるようになりました。また、枕やふとんに針が刺さっていないかを執拗に気にして、寝る前には必ず一時間ほど点検します。この頃から精神科を紹介され、くすりを服用しているものあまり効いている様子はありません。最近、娘の近くにうっかり物を投げたりすると大声で泣きわめきます。本人も家族もどうしたらいいのか途方に暮れています。

(大阪府 Y・S)

精神面の問題にも目を向け じっくりと相談にのってくれる 専門家を探すとよい

中学一年という、人生で心身の変化がもっとも激しい時期に、娘さんの症状がおこっています。ふらつき、めまいは自律神経系が過敏になっておこったものですが、この時期

とも示していると考える必要があるかもしれせん。

こんなときに本人は当然、身体症状でもって周囲の人々に自分の苦しみを訴えますから、家族はどうしても身体面にばかり気持ちがいきやすくなります。

しかし、よく考えてみますと、同じ身体症状でも精神面の苦しみをもっている場合とそうでない場合とは、ずいぶんと違いがあることに気づくはずですよ。

たとえば、すべてを症状のせいにして生活面で引きこもりがちになったり、人づきあいから回避的になったり、攻撃的になったりしやすい場合は、単に身体面の問題としてばかりみては大切なところを見落としてしまいます。

精神的な苦しみは、本人のみならず家族も正面から受け止めがたいものですから、ほかの原因を探し求めるのは当然の心のはたらきです。

でも、あまりにも身体面の原因探しばかりしていると、精神面の問題がどんどんこじれていくわけですよ。自分の本当の苦しみを誰もわかってくれないという気

持ちになります。

娘さんの経過をみると、そのようなことが想像されます。人との接触を回避し始めるとともに、ささいなことが気になっていきます。

人との接触を回避するようになってきたのは、自分に対する自信がどんどんなくなっていく、周囲の人々が異様なほどに大きく見えて、圧倒されるような心理状態になってきたためでしょう。

こんな心理状態になると、生き物のみならずふとんや枕に刺さっている針までもが自分に迫ってくるように感じられて強い恐怖心に襲われてくるものです。

自分に侵入してくるものすべてが、娘さんにとって恐怖の対象になるのです。したがって、娘さんは自分のなかに侵入してきそうなのをすべて排除して自分を必死に守ろうと苦闘しているのでしょう。

このように考えていくと、この病気の始まりに、もう一度もどってみる必要があるになります。きっと当時の娘さんの心に何か大きな不安となるものがあつたはずですよ。中学一年とい

う時期は乳幼児期の心理的問題が姿形を変えて再現します。この時期は前思春期とも呼ばれ、心理的に母子分離が展開していくのですが、乳幼児期に心理的問題をひきずってきた子どもでは、前思春期に大きな混乱をおこしやすいのです。

ただ、心がけてほしいのは、前思春期に大きな問題をおこしてきたことは、思春期を迎えるにあたって、それまでやり残していた心の成長のための課題にとり組もうとしているのだ、貴重な時期を与えてくれたいるのだというプラス思考で受け止めることです。

じっくりと相談にのってくれる精神科医か臨床心理士が見つかるといいですね。



●回答者
東海大学
健康科学部教授
児童精神科医
こばやしりゅうじ
小林隆児